報告 REPORT

令和７年度道内急病センター連絡会

常任理事・救急医療部長　白崎（しらさき）　修一（しゅういち）

標記連絡会を本年１月24日（土）、道内14急病センター、当会の救急医療対策部会小委員会委員および担当役員が出席し、ハイブリッド形式により開催した。

佐古副会長の挨拶の後、事前に各センターに募った運営上の問題点および今後の課題等について適宜意見交換を行った。

意見交換１「夜間急病センターへの集約化事例」

医師の高齢化や開業医の減少により在宅当番医制の維持が難しい現状を踏まえて、地域の医療体制維持のために診療体制を夜間急病センターに集約化したセンターから現状や新体制の課題について説明があった。人員確保や体制整備に苦労する部分はあるが、地元の開業医や道外のフリーランス医師の協力を得て、問題なく運営しているとのことであった。

意見交換２「診療体制の維持に関する取り組みや課題」

⑴　平時からの取り組みや課題

多くのセンターが医師の高齢化に伴う協力医の減少や看護師・スタッフの確保が困難となり、近隣市町の医療機関や行政の協力を得て体制を維持しているが、急な欠員へのバックアップ体制に課題があるとした。また、経費削減の観点から薬剤や医療材料の在庫管理の定数化を行い、物価高が進行している状況においても安定した経営を維持しているという意見もあった。

⑵　年末年始・大型連休の対応

昨年度の年末年始は季節性インフルエンザが大流行したため、人員確保やシフト調整に苦慮したという意見が多くあり、人材派遣会社や地元医師会に依頼し、アルバイト（看護師・医療事務）を確保の上、対応していた。また、人材派遣会社の利用については経費が増幅するが「市民の安心安全を守ることを優先した判断」というものであった。他にも電子カルテと電話回線の増設や駐車場に誘導員を配置し、患者増を想定して対応するなど、設備整備に着手しているという意見もあった。

意見交換３「新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスの迅速検査の実施状況」

社会的使命感のもと「検査キットを大量に仕入れて積極的に実施している」、患者からの要望が多数あることから「検査時間や医師の判断によるといった条件を設定して行う」など、地域の特性や近隣市町のセンターと医療機関の実施状況を鑑みて導入を調整しているとのことであった。

意見交換４「キャッシュレス決済の普及状況」

導入しているセンターからは感染症流行期の混雑解消や未収金の防止に有用であるという意見があった。また、患者とスタッフの満足度やインバウンドの増加に伴う外国人対応においてメリットが大きく、自動精算機を導入しているセンターもあった。

意見交換５「夜間における精神科救急患者の対応」

夜間における精神科救急患者（オーバードーズ）の対応について、自殺企図がある患者はバイタルサインの安定を確認した上で、精神科に引き継ぐべきであるが、転院に関する調整に苦慮した症例があったという報告があり、急病センターと精神科病院の連携システムの構築について要望があった。当会としては、本症例の事実関係の把握に努め、新たな地域医療構想に精神科医療の項目が追加されることから、本件を含め適正な対応について課題解決されるよう道に申し入れすることとした。

◇

地域によっては医師の高齢化等により、医療機関の閉院が相次ぎ、日常の医療提供体制の確保も困難となる中、各郡市医師会と行政が連携を図り、様々な工夫をしながら運営されている各センター関係者の皆さまに敬意を表する。

当会としては日本医師会ならびに郡市・医育機関医師会との連携をより強固にし、住民に休日夜間当番医療機関等の役割や適正な救急医療機関の利用についての啓発活動を行い、各センターの運営に協力していきたいと考えている。